第3回 医療機器産業ビジョン研究会・検討ワーキンググループ

議事要旨

<人材育成（若手研究者支援、異業種人材リスクリング）>

- ・ 若手のスタートアップ人材の育成は、座学の教育よりも実際の現場での実践からの学びや経験が有効である。
- ・アントレプレナーシップ教育を教える人材、経営人材に成功経験のある人が不足しているが、AMEDの支援もあって少しずつ育ってきている。地道に成功事例を積み重ねていくこと、人材流動、組織団体として取り組んでいくことが次の人材を生むエコサイクルに繋がる。
- ・リスクリングは年齢や経験などでカテゴリーに分け、座学と実践のそれぞれ議論していく必要性が指摘された。

<国際展開の強化>

- ・米国での販売は、大手でも非常に苦勞しており、流通構造も独特。スタートアップや中小企業が自力で進出する方向と、チャンネルメジャーと協業していく方向と、もう少し深く検討していくことが必要。その中で、日本の技術の出口を日本企業でなければいけないという目線を変えていく必要もある。
- ・当初から米国と日本の両方で事業化を目指すことが不可欠であるものの、開発費用・治験等の費用感も全く異なる。目標設定を置き、国としてどういう開発をしていくのか、どういう支援が必要かは議論のポイントであるが、実際に国でできるのか、米国かアジアでも全然違うので、そこは丁寧に分けて議論する必要がある。
- ・米国だけでなく、国の役割という観点からすると、発展途上国に対して国の役割はある。

<中間とりまとめ（案）>

以下の事務局案について、一部、視点を追加したうえで、大枠で合意。

- ・産業構造改革：CDMOの概念を整理し、水平分業をより推し進めていくことが大事。
- ・価値の源泉：今後さらなる深掘調査をして議論していく。一方、疾患領域の切り口だけでなく、医師の人手不足を解消するようなものや効率化に資するものなどの観点も持つておく必要がある。
- ・海外展開：国際展開は不可欠で、市場の大半を占める米国での市場獲得は重要。一方、国としての支援体制を検討していく中で、展開地域や領域についてもう少し深掘りした議論が必要。